

キタを愛する人たちのための、キタを再発見するマガジン。ネットに載らない情報テコ盛り。

子育て号

つひまぶ

2019年4月号

北区魅力発信フリーペーパー「つひまぶ」vol.14 2019年4月1日発行 編集・発行：北区のおもろ通信団（編集長／浅香保ルイス龍太 編集スタッフ／秋山暁子・田口和成・棚橋真理・平井裕三・松岡慧祐）協力：大阪市北区・北区コミュニティセンター・奈良県立大学地域創造学部 連絡先：【mail】tsuhimabu@gmail.com 【blog】http://tsuhimabu.blogspot.jp（誌面に載せきれない情報はブログでね♡） 定価：0円 主な配布場所：大阪市北区役所・北区民センター・大淀コミュニティセンター・北図書館・大阪市住まい情報センター・大阪市北区社会福祉協議会・江之子島文化芸術創造センター・大阪市ボランティア市民活動センターほか多数（配布場所はブログにて随時お知らせします）※当雑誌の内容、テキスト、画像、イラスト等の無断転載・無断使用を禁止します。



大阪市立曾根崎小学校 創立百周年記念誌 口絵より転載

日本最初の参加体験型チルドレンズミュージアム「キッズプラザ大阪」とは

子育て世帯の増加に伴い、キタにも子どもが遊べる体験型の施設が増えつつありますが、真っ先に思い浮かぶのは、その手の施設の先駆けでもある「キッズプラザ大阪」です。扇町公園に隣接する、ミラーガラス張りの遊びのあるユニークなデザイン建物には、今日もたくさん子どもたちが訪れています。22年前、日本で最初の本格的な参加体験型チルドレンズミュージアムとしてオープンして以来、毎年40万人以上が訪れ、昨年には通算入場者数が900万人を突破するなど、他の追随を許さない人気を誇っています。

いまち天満」の発展に寄与してきました。屋内施設である「キッズプラザ大阪」では天候や気温を心配することなく遊ぶことができ、また、授乳室やミルク用の湯沸かし器なども完備されています。さらに、当日であれば何度でも再入館が可能なので、隣接する扇町公園で遊んだり天神橋筋商店街を散策するなど、その日の天候や気分に合わせて行動することができます。

魅力的な環境に囲まれた「キッズプラザ大阪」ですが、本当の魅力は、館内の展示物にあります。「キッズプラザ大阪」は、日本のいわゆる「博物館」ではなく、アメリカから世界中

にひろまった参加体験型の子どものための文化施設「チルドレンズミュージアム」の概念をそのまま取り入れた施設で、「子どもたちが楽しい遊びや体験を通じて学び、創造性を培い、可能性や個性を伸ばす」ことを基本理念に置いています。

たとえば、子どもたちは自由に展示物に触ることができ、展示物はその動きに合わせて反応します。その動きから子どもたちは興味や想像力を膨らませ、学ぶことの楽しさを体験します。禁止事項も少なく、順路も自由、展示物の説明も最低限のものしかありません。説明を読まずに、思い思いの方法で遊ぶ子ども

もいます。そうやって、子どもたちの自発的な意思に基づいて、自由に伸び伸び遊ぶことができる貴重な機会を提供しています。

また、館内にはインタラクティブと呼ばれるボランティアがあちこちにおいて、子どもたちが楽しく遊ぶための手伝いをしています。遊び方の分からない子どもにもヒントを与えたり、遊び相手になったりして、子どもたちの遊びと学びをサポートするインタラクティブの存在もこの施設の魅力のひとつです。

最近では、中国の口コミサイトにも掲載され、中国人の旅行者も数多く訪れるようになったそうです。「キッズプラザ大阪」では外国語が話せるインタラクティブも在籍していますが、遊びや体験を重視するチルドレンズミュージアムでは、言葉が通じずともすぐに遊ぶことができるため、それもまた人気の秘訣なのだそうです。

「キッズプラザ大阪」の展示物や展示構成は、オープン以来、一部デジタル関連の展示物を除いては、ほとんど変わっていません。「子どもたちが楽しい遊びや体験を通じて学び、創造性を培い、可能性や個性を伸ばす」という基本理念が今もじゅうぶんに有効だということでしょう。子どもたちが自らの意思で考えることや失敗を恐れずに挑戦すること、それぞれの個性が遊びを通じて表現されること、ともに助け合う優しさなど、「キッズプラザ大阪」での体験を通じて学べることが、今も昔も大切であり、むしろこれからです注目されていくように思えてなりません。

（平井裕三）

編集後記

今回の取材をきっかけに、現在進行形だけど、自分の子育てを振り返ってみました。一緒に遊んであげる、本を読んであげる、宿題を見てあげる、風呂に入れてあげる、洗濯をしてあげる、寝かしつけてあげる…。父親として結構がんばってきたと思うけれど、冷静に考えてみると、すべて「～してあげる」となっていることに気がつきました。これって、「子育ては母親がするもので、父親は助けてあげるもの」みたいになっているということですね。そんな恐れ多いことはまったく考えていませんでしたが、無意識にそうなっていて、母親側に負担をかけていたのかもしれない。以後、あらためなければいけないと痛感しました。これは悪い見本かもしれませんが、こんな感じで、自分以外の第三者の話を聞くと、新たな気づきがあるかもしれません。その気づきが、みなさんや、みなさんの知人の子育てに役立つことがあるかもしれません。（田口和成）



「つひまぶ」ブログ 毎週月曜更新 http://tsuhimabu.blogspot.jp

「つひまぶ」では、編集メンバーを随時募集しています。興味がある方は、Facebook「つひまぶ」よりご連絡ください。



撮影/浅香保ルイ龍太

よそから引っ越してきて、
知り合いがいなくて、
ひとりで子育てを抱え込んでいる人にこそ

生まれも育ちも、そして新婚生活も東京で過ごしてきた杉山夏苗さん。東京で子どもを授かり、新しい家族とともに人生を歩んでいくはずだったのに…。

菌車が狂いはじめたのは、出産後間もなくのことでした。夫の転勤により、大阪の大淀地域に引っ越してることになったのです。「友だちはいない、実家は遠い、仕事は辞めた。すべてがブチッと終わった感じだった」。初めての子育てにも関わらず、まさかのゼロスタート。唯一の頼りは夫だけ。しかし、それすら打ち砕かれることに。「仕事やゴルフで家を空けることが多く、子育てに対する考え方も合わなかったので、イライラが止まりませんでした」。他に誰かを頼ろうにも関西弁は怒っているように聞こえて怖い。子防接種で区役所に行ったときも担当者の関西弁に圧倒され、相談する余裕はありませんでした。「精神的にヤバかった。でも、母に心配を掛けなくなかった。実家に帰ることもできなかった」。まさに崖っぷちの状態だった杉山さん。この危機をどうやって乗り越えたのでしょうか？

転機は、みつるポケットでおこなわれた「ブックスタート」への参加でした。絵本の読み聞かせなどをしてくれ、家庭でも親子で楽しい時間を過ごせるよう絵本がプレゼントされる取り組みです。「区役所でお知らせをもらったとき、最初は人の輪に入るのが面倒だなと思った。けど、絵本はいいな」と。絵本目的で参加した杉山さん。ここで今後の子育てを左右する出来事が。「みつるポケットの先

生から0歳児の集いもあるよと言われたんです。母親同士の集まりって、すでにグループができていて入りにくいじゃないですか。でも、0歳児ならスタートがおなじなので入りやすいかな」と。こうしてみつるポケットに通うようになった杉山さん。しばらくすると昼食を持ち寄って、情報交換をする友だちができました。そんな簡単に？と思いますが、イベントを通じて先生が会話のきっかけをつくってくれたり、上手に話を振ってくれたりするので、自然と友だちができるそうです。最初の一歩さえ踏み出せば、「子育て」という共通の話題があるので、親しくなりやすいのですね。居場所ができ、だんだんと大淀地域での子育て生活に慣れてきた杉山さん。ここから本領を発揮していくことになりました。

「鍼をしましょうか」。気持ちに余裕ができたのは、はじめた頃、慢性的に足を痛がる先生を見かね、つい声を掛けてしまった杉山さん。じつは鍼灸師の資格を持っており、東京では鍼灸の仕事がバリバリやっています。ところが不安も。「誇りがないわけではないけれど、鍼灸って怪しいイメージがあるじゃないですか。だから、余計なことを言ってしまったかな」と。しかし、ふたを開けてみると、みんなは興味津々。鍼を施すやいなや、「私もやってほしい」と次々にリクエストが来ることに。今では、みつるポケットの定休日を利用して、母親に温灸、夜泣きのきつ子に小児鍼を施しています。子どもに鍼？と思うかもしれませんが、実際は棒のような道具で体をこするだけで、鍼を

刺すわけではありません。また、年に数回、小児鍼の講座を開き、「鍼はスプーンお灸はドライヤーを使って簡単にできる」と教えています。助けられる側から助ける側が変わってきた杉山さん。子育てに対する考え方も変わってきました。

「子育てをすると、夫も彼からパパに変わり、違う一面を見る機会が増えました。子育てに対する考え方の違いにも悩みました」「みつるポケットと出会って、知らない人に助けてもらうなんて考えられなかったけれど、信じられる誰かに自分の子育てに加わってもらうことが、どれだけ世界をひろげてくれることなのかを知りました」と杉山さん。子どもが生まれたら親年齢も0歳からのスタート。周りに支えられて親も成長していくのですね。「夫のことをひと呼吸置ける存在に思えるようになってからは、自分と違う視点のアドバイスをお願いすることが増えました。これからは、ともに子育てをした戦友みたいになりたいな」と語る杉山さんの姿を見ていると、ひとりで子育てに悩んでいたことが嘘のように思えてなりません。(田口和成)

子育てサロンに行ってみませんか？

みつるポケットは、特定非営利活動法人樹(いつき)が、大阪市のつどいの広場事業として、週5日開催している施設です。就学前の子どもがいる方はぜひ行ってみたいですが、大淀地域以外にお住いの方は遠くまで行きづらいかもしれません。

そんな方にオススメなのが、子育てサロン。地域の民生委員や児童委員などが中心となって運営しているサロンで、子ども同士を遊ばせたり、親子で遊んだりしながら、子育てに関するノウハウや情報を交換することができる場所です。サロンによっては、お誕生日会やクリスマス会など楽しいイベントもあります。北区内に約15ヶ所あるので、お近くのサロンに行ってみてはいかがでしょう？ 開催日は各サロンによって異なりますが、月に1回のところが多いです。ご興味を持たれた方、詳しく知りたい方は、北区役所の子育て支援室(06・631309533)にお問い合わせを。



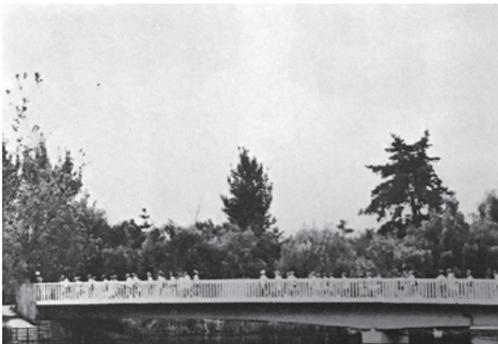
半世紀前の曾根崎小学校に、子どもたちの健康を真剣に憂う大人たちがいました。



当時の朝食給食の様子



当時の校外進出（服部緑地）の様子



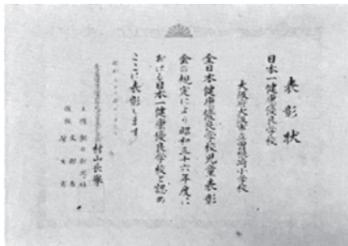
営側にいた人のお話を聞くことはできませんでしたが、サービスを受けていた少し下の世代に当たる大橋佳代さん（66歳）によると「友だちのお兄さんが6歳年上で、お米1合を持って朝食サービスを受けていたと言っていました。でもそんなに長い期間じゃないんです。朝食サービスは1958年（昭和33年）〜1959年（昭和34年）頃にあったように聞いていますが、確かなことは分からないです。夜遅くまで商売をしていた家庭が多く、朝食抜きで登校してくる子どもたちが倒れたりして、それではじまったらしいです」とのこと。おぼろげな記憶ながらも記念誌の記事と一致し、短い期間だったようですが、記録とともに人々の記憶にも残っている出来事のようなのです。

年生と6年生は、服部緑地まで歩かされました。往復16kmになります。朝出発して、昼に着くんです。そりゃあしんどかったですよ。おやつは30円まで。キャラメルやアメシカ買えないんですが、前日にバナナの行商が来たので、買おうと思ったら40円！断念せざるを得ませんでした（笑）今でも新御堂筋を車で走ると、あの道を行進した、この道も歩いた！と、当時のことが思い出されます」と、大橋さんは懐かしそうに語ってくれます。大橋さんの年代には朝食サービスはすでに終わっていたとのことですが、昼食の給食となると、が然記憶が蘇ってきます。「当時はパン食です。コッペパン。たまに食パンが出ました。ジャムが付くときもありましたね。欠席した児童には、友だちが家までパンを届けていました。あと、3年生までは脱脂粉乳でした。ココア味のものが出るときもありましたけれど、いずれにせよ、生ぬるかっただすね。それ以外にも、「タジラの煮物が美味しかったですよ。ポークビーンズや春雨の炒めものも出ました。大鍋に入ったおかずを数人で教室まで運んでいたの、よくこぼしたもんです。ぜんざいが出たこともありました。そうそう、チーズが出た頃だけ、なんだか石鹸みたいだった記憶があります。まさに、昨日の出来事のように語ってくれる大橋さんです。また、中学校では給食ではなく弁当になります。冷たい弁当を食べたことがなかった。いつも温かい弁当を食べました」という話が、曾根崎では数多く語られます。朝食抜きで登校する児童が少なからずいたのと同様、登校時に弁当を持

昨年秋から冬にかけて、今号の特集に向けて食育について調べていた頃、子どもたちが朝食をとることができている環境を整備する取り組みが東淀川区や広島県などではじまったとの報道がありました。登校前に「朝食を食べないことがある」と答えた児童生徒が、小学校では13%、中学校では19%に上るという数字が『文部科学白書』で紹介されたのが2008年（平成20年）で、その頃から朝食を食べることの重要性が強調されていったようです。朝食を食べない子どもは学力も体力も低いという話も、よく耳にするようになりました。また、港区では従来の高齢者向け食事サービスと子ども食堂を合体させたような「田中食堂」が大変な人気を博するなど、朝食だけにかぎらず、子どもと食をめぐり取り組みがさまざまな場所ではじまっています。北区でも、いろんな場所で子ども食堂が運営されています。そんななか、歴史をひも解いてみると、なんと、半世紀以上も前に、当時の曾根崎小学校で朝食サービスがおこなわれていたことが分かってきました。1974年（昭和49年）に創立100周年を記念して発行された記念誌『曾根崎』によると、「昭和33年11月4日 朝食給食をはじめた。夜おそくまで商売をする家庭が多いため朝食抜きで登校してくる児童が少なからずあり、教育上、放置できないということになった。この制度が発足したときに対象になった児童は37名であった。」とあります。当時、実際に朝食を食べたり、制度の運



(右) 健康優良学校・日本一の盾
(中) 健康優良学校・日本一の表彰状
(左) 校庭に人文字で描かれた「日本一」



※この見開きに掲載の写真はすべて「大阪市立曾根崎小学校創立百周年記念誌『曾根崎』」より転載

健康優良学校・日本一 昭和天皇皇后両陛下がご臨席して授賞式

1874年（明治7年）8月に西成郡第三区第一番小学校として創立した曾根崎小学校は、1989年（平成元年）3月に閉校するまで115年の長いあいだ、移り変わる曾根崎を見続けてきました。また小学校そのものも、校名が変わったり、学区がひろがったりと、激しく変化しました。そんな曾根崎小学校の1世紀に及ぶ歴史のなかには、いくつもの輝かしい業績があります。なかでも、1961年（昭和36年）11月に文部省（当時）、厚生省（当時）、朝日新聞社より「健康優良学校・日本一」の表彰を受けたことは、特筆すべき業績として挙げられるでしょう。昭和天皇皇后両陛下がご臨席して皇居にておこなわれた授賞式には生徒会長が代表して臨み、当時の週刊誌には「繁華街のまんなかに立地する不利な環境を克服しての受賞」と大きく取り上げられました。帰阪後には、現在の読売新聞社前から阪急梅田駅まで紙吹雪が舞うなかパレードがおこなわれたことから、この受賞がいかに大きな出来事であったのかがうかがえます。

また、前々年の1959年（昭和34年）11月には、文部省（当時）、厚生省（当時）、朝日新聞社より「健康優良学校・準日本一」の表彰を、文部大臣（当時）より「学



皇居における授賞式

前号の「彼女とキタのラプストリー」の取材中、中之島にある老舗喫茶店「珈琲の店 ボア」の店主・室谷聖子さんから、ファミリー向けのマンションが建つようになった中之島では、「ラジオ体操」がきっかけになって、新住民の若い人たちが地域の活動に参加するようになった、というお話をお聞きしました。親子でラジオ体操に来ていたお父さんが、昨年から地域の青少年指導員になっていると仰うのです。考えてみれば、子育て世帯も多い中之島の新たな住人たちは、マンションに住みながら、どうやって地域を知り、地域活動に参加するようになるのか？ そのきっかけがラジオ体操って、どういうことなのか？

親子参加の地域行事が多い中之島のお話をうかがってきました。

1944年（昭和19年）に中之島小学校が閉校して、すでに75年。幼稚園児から中学生までの子どもがひとりもない時期もあったという中之島は、長らく大人のまちとしてあり続けてきました。4月のお花見や9月のお月見にはお酒や料理を持ち寄って宴会をしたり、日帰りバス旅行は陶芸やお寺巡りなどで、地域行事も大人向けのものになっていました。人手が必要な餅つきは、町会が主催することもあれば、地元の企業が主催することもありました。地域の活動としてラジオ体操をはじめた当初も、参加者は子どもが4人、大人が10人程度で、期間も夏休みのはじまりから7月31日までの短い活動でした。

りになっていきました。

また、小國さんは、「じつは、参加するようになった前の年にも、絶対どこかでやっているだろうと思って、ラジオ体操を探していたんです。いつ、どこでやっているのか分からなかったのですが、ラジオ体操をしている時間帯にあちこち歩いて探していました。でも見つけられなかったんです。今思うと、その年のラジオ体操は終わっていたんだでしょうね」とも話されました。地域のことから分らない、新しく建ったマンションまで情報が伝わってこない、そんな声も増えたのでしよう。地域活動を主催している中之島連合振興町会のホームページを立ち上げることにもつなかりました。また、ラジオ体操の場で地域行事を告知するようになったところ、参加者が自分のマンションにチラシを掲示してくれるようにもなりました。今では、町会のホームページとチラシの全戸配布とで、地域活動の案内をしています。その効果もあって、ラジオ体操以外の行事にも参加者が増えていきました。子どもが先に興味を持って、そのせいで親も一緒に、なん

てことも。ラジオ体操自体も変化していきます。子どもがラジオ体操に来るのが楽しみになるよう、皆勤賞をやめ、毎日くじ引きで景品が当たるようにしたのです。スパーボールやシャボン玉セットといったちょっとしたおもちゃですが、毎日おもちゃがもらえるチャンスがあるとあって、今では子どもだけで毎日20人、期間中延べ600人が参加する

までになりました。

このように、親子で地域行事に参加することで、まちの人を知り、まちに愛着を持つてほしい、中之島をふるさとと思う子どもに育ってほしい、その思いから、大人向けだったほかの地域行事も、子どもも楽しめる内容に変化しています。お花見には絵本の読み聞かせをしたり、お月見にはハロウィーンの衣装をしたり、ゲームをしたり。日帰りバス旅行は、親子でも楽しめるように、和歌山までパンダを見に行ったり。小國さんのような子育て世代や子育てがひと段落した世代が中心になって企画しています。昨年には、子どもと一緒に年末の夜まわりをする「サンタの夜まわり」という企画が立ち上がりました。サンタ帽をかぶって、中之島から堂島まで1時間半かけて夜まわりをする、まったく新しい行事です。もともと、地元の企業からの持ち込み企画も多い中之島では、「思いついたことを実現する」気風があり、新しい取り組みに前向きで、実行力があります。そのため、新しい行事が生まれたり、長年続いている行事も参加者みんなが楽しめるように、内容を変化させていっているのです。すべてに共通しているのは、大人だけでもない、子どもだけでもない、大人も子どももみんな一緒に楽しめるということ。子どもは、まさに活気を与える存在として、これからのまちを引き継いでいく存在として、大切に見守られています。

（棚橋真理）

中之島の地域活動

中之島の地域活動は、お花見、バス旅行、精霊流し、観月会、餅つきと、長く続いてきたものがたくさんありますが、時代とともに変化しています。4月のお花見は、まだ、大阪大学のキャンパスが中之島にあった頃、キャンパス内の桜の下に集まってお弁当をひるげるようになったのがはじまりです。本格的な茶懐石をしていた時期もあったのだとか。今では、4月下旬に満開になる大阪市立科学館のツツジを愛でながらお弁当を囲むお花見に力を変えて、続いています。

近年では、どの行事も子ども向けに内容をソフトさせてきました。でも、子育て世代だけでなく、子育てを終えた世代の方もたくさん参加しています。餅つきイベントに、準備から参加していた女性は「私はリタイア組です。退職して、ゆっくり都心に住みたいと思っただけで、中之島に来ました。そうしたらとても熱心に地域の活動をされていて驚きました。しかも、私より年上の方々がとてもがんばってらっしゃるの。それを見てると、まだ若いほうの私も、できることは手伝いしようという気持ちになるんです」と話してくれました。子どもを中心としているんだ世代が集まって一緒に活動しているのが、中之島の地域活動の特色です。



夏
の
ラ
ジ
オ
体
操
に
冬
の
餅
つ
き
大
会
、
春
の
お
花
見
、
秋
の
お
月
見
……
なぜ、中之島では親子参加の地域行事が多いのか？

昨年の北区民カーニバルで、保育園の年長グループに混じって、小太鼓を元氣いっぱい叩きながら行進する優月（ゆづき）ちゃんがいました。聞くと、保育園の先生が優月ちゃんの身体に合った小さい小太鼓を用意してくれたとのこと。そのおかげで叩きやすくなったはずなのに、優月ちゃんは結構、マイペースで叩くんだそうです。でも、曲の最初と最後はチャーんと合わせてくるあたり、じつに要領のいい優月ちゃんなのです。

僕が初めて優月ちゃんと出会ったのは、2015年（平成27年）のこと。東日本大震災の復興支援のためのボランティアのイベントに、親子で参加していた優月ちゃんと遊んだのが最初です。元気に会場中を駆けまわる優月ちゃんとヘトヘトになるまで遊びながら、なんと生命力のあふれる子！と感じたのです。もちろん、そのとき、優月ちゃんがダウン症を持った子どもであることは、口に出さずとも、すぐに分かりました。ただ、優月ちゃんのお母さんも、周囲も、そして僕さえも、そのことに特別な何かを感じる

ことがまったくありませんでした。今回、子育てについて特集を組むと決まったとき、真っ先に頭に浮かんだのが、優月ちゃんと彼女の親御さんのことです。あの、なんでもない普通さ加減は、どこから来るものなのだろう？ せひ、お会いしてお話を聞かせてほしいと思い、アポを取ったのです。

優月ちゃんのお母さんである瀧澤美紀さんは、39歳のときに優月ちゃんを出産。翌月にランチをする約束を交わしてその日は別れたのですが、今にして思えば、これが「Sunny ones（サニーワズ）」の出発点となりました。

こうして、ダウン症の子どもを持つママ友たちが交流する団体、サニーワズが誕生します。最初は情報交換をしていただけだったものが、次第に、その家族に寄り添い、サポートする活動を展開していきます。今では、ダウン症だけに特化せず、すべての子どもたちとその家族を対象とするまでになり、市内全域で約90家族（2019年1月現在）が在籍しています。

「私ね、サニーワズのメンバーとおなじ時間を共有できるのも、優月のおかげだと思ってるんです。優月のおかげで、知り合うことのなかった人たちと知り合うことができて。だから、優月を産んだことは、宝くじに当たったようなもんだと思えるようになったんです」。

「昔は、障がい児のことなんて他人事だし

妊娠8ヶ月のときに、足が少し短いかないと診断されたそうです。足が伸びてこないのと、羊水が普通よりも多いのが少し気になるとお医者さんに言われ、「生まれてくる赤ちゃんに障がいがあるかもと、チラッと気にするようになり、ネットで調べたりするうちに、ダウン症のことが少し頭をよぎるようになりまし」と言います。ご主人にも、もしかしたら、とは伝えたものの、あまりリアリティーを持って捉えることはなかった様子。なので、「出生前診断のことは頭にもまったく浮かばなかったです。そもそも、妊娠したことにびっくりしていたくらいでしたから」。

優月ちゃんが生まれてきたとき、顔と手を見て、やっぱりダウン症だった！とすぐに分かったそうです。でも、お医者さんはすぐには教えてくれなかった。教えてくれたのは、ご主人が病院に来てから。じつは赤ちゃんに異常があると、NICU（新生児集中治療室）に入れられ、多血症、新生児黄疸、十二指腸狭窄症、染色体異常と、ずらずらと難しい病名を並べられ、「もう、病室で3日間は泣き通してましたよ」と瀧澤さん。NICUには1ヶ月間入れられるし、保育器のなかでオムツを交換しなければならぬし、目隠しもされていたので、赤ちゃんの顔を見ることができたのは、退院の1週間前だったそうです。

しかし、そのときに瀧澤さんが思ったのは、これは過去からの報いであり、戒めなんやな、と。瀧澤さんは、21歳のときに長女を出産され、その後、離婚されたた。テレビのなかの出来事でした。でも今は、自分のことだし、優月を産んでいなかったら、プラプラしているだけの人生だったかもしれない。それに、サニーワズをつくって、周りからも頼られるようになって、必要とされている実感や達成感みたいなものが得られるようになりまし。これも優月のおかげです。

そんなふうにおなじ境遇でおなじ思いを抱えているママさんたちと交流することで、瀧澤さんは、視界がぱあっと開けたようにポジティブになっていきます。「優月のサポーターをたくさんつくるのが私の役目。優月や優月のような人に理解を示す大人がたくさん増えることが大切。だから、私が社会に出ていってたくさん大人の優月のことを知ってもらわなければならぬと思っています」。そんなふうにおなじことを思っている活動ですが、やがて、「最初は、優月が幸せになるんだと思ったら、優月のことだけを考えていたけれども、活動していくなかで、ダウン症だけ

過去があります。そのときに、長女は元ご主人に付いていくことを選んだので、瀧澤さん自身は途中までしか子育てをしていない、というじくじたる思いがあります。そんな過去を経て、「神様が、今からきちんと子育てをしろと言ってるんやなと、悟りました」と言います。

ただ、そうなること知りたくなってくるのが、今後のことです。この子はちゃんと生きていけるのか、私たちは親として何をしなければならぬのか。そうしたあたりまえのことを病院に聞こうにも、腫れものに触るような扱いを受け、迂闊なことは言えない様子で、明確に答えてもえなかつたそうです。

「ナマの声を聞きたいと思いましたね。私とおなじようにダウン症の子どもの持つママさんたちの声を聞きたいと、心から思いました。北区にダウン症の子どもの持つママさんがいないかどうか、保健師さんに聞いたら、個人情報保護の壁があり、教えてもらえなかつたそうです。そんなとき、3ヶ月検診の折、保健師さんから、おなじような思いを抱えているママさんたちからの訴えが届いています。みんな顔合わせをしますか？と、打診がありました。もちろん、ふたつ返事で、「会わせてください！」。

「4人のママさんと、保健福祉センターで顔合わせをしたとき、予定の1時間があつという間に過ぎて、会議室を追い出されてからもロビーでさらに2時間くらい話し込んでいました。みんな明るすぎるくらい明らかなのが印象に残っています」。

ではなく、発達障がいのことなんかも考えるようになりました。結局、狭い世界で生きるのではなく、たくさん大人と触れ合うことが優月にとっても大切なことだと思ふようになりました。「つい、他の子どもと比べてしまうんです。どうして優月はできないのか。そのたびに、物差しは人によって違う！って、周りの人から何度も言われてきました。少しでも普通に、ということもよく考えてしまいます。でもそれは、自分のエゴで、自分の達成感だけのことで、優月の幸せとはまったく関係ないと思えるようになったことが大きいですね」。

そんなふうにおなじようになったのは、障がいと向き合うのではなく、優月ちゃん本人と向き合えるようになったということなのかもしれません。だからこそ、マイペースに小太鼓を叩く優月ちゃんが、誇らしいのでしょう。

（浅香保リス龍太）

私とおなじダウン症の子を持つママさんたちの ナマの声を聞きたいと思っただんです。



撮影／浅香保リス龍太

特定非営利活動法人 Sunny ones

特定非営利活動法人Sunny ones（サニーワズ）は、ダウン症を持つ子どもを授かったという縁でつながった人たちが集まり、2012年（平成24年）にスタートし、現在は特定非営利活動法人として組織されています。

「Sunny（サニー）」の名前には、ダウン症の特徴である21番目の染色体が、通常の2本ではなく、1本多い3本あることから、「3（サ）・2（ニ）・1（イー）」あるいは「Sunny（お日様）」というふうな数字と言葉を掛けて、お日様のようにいつまでも明るいキラキラした会にしたいという意味が込められています。

懇親会など月1回程度おこなわれる情報交換の場である「子育てサロンの事業」、ダウン症や障がいのある人々により身近に生きやすい社会になるよう普及・啓発をおこなう「ダウン症の啓発活動」、年に数回程度、各方面から専門家を呼んでセミナーや講演会をおこなう「セミナー・講演」のほか、「カウンセリング事業」を大きな柱にしているのが特徴です。

「カウンセリング事業」では出生前診断前後や実際の出産の前後に医療関係者と連携し、ダウン症や障がいのある子どもと暮らしや療育について話をしたり、家族の話や近隣地域で知り合いになれそうな人を紹介したりするなど、さまざまなカウンセリングやサポートを実施しています。活動場所は主に

大阪府北区社会福祉協議会。参加地域は大阪府北区をはじめ、大阪府全域、吹田市、豊中市、寝屋川市、神戸市、尼崎市など関西一円（関西以外もあり）。月齢3ヶ月〜8歳の子どもとその家族約90家族が在籍しています（2019年1月現在）。

【問い合わせ】
nposunnyones@gmail.com

AsMama 地域の親子が出会い、「子育てシェア」を。

保育園や幼稚園に子どもを預けていても、子どもが熱を出したりして、急にお迎えに行かなければならないことって、しょっちゅうあります。でも、仕事を抱えていたり、家族の協力が得られにくかったり、周囲に知り合いがいない環境で子育てをしている人にとっては、急なお迎えは本当に難しいことです。特にマンション世帯が大半の北区では、その傾向がとても強いです。そんなとき、急なお迎えや託児を気軽にお願いできる人がいたら…、そんなニーズに応えるべく誕生したのが、AsMama (アズママ) の「子育てシェア」です。そう、ひとりで子育てをすべて抱えるのではなく、みんなでシェアしましょう！という発想のサービスなのです。

まずは AsMama のサイトにアクセスして、基本情報を登録。困ったときにお互いに助け合える「シェア友」の一員になります。登録料や手数料は無料。ここでシェア友同士がシェアし合えるものは、「モノ」「コト(予定)」「送迎や託児」です。

「モノ」は、お下がりやお裾分け、貸し借りができる「モノ」のシェアのこと。

送迎・託児の安心頼り合い AsMama 「子育てシェア」
【HP】 <http://asmama.jp/>



「コト(予定)」のシェアは、イベントや食事などに誘い合うものです。そして、「送迎や託児」のシェアは、知り合いだからこそ、親はもちろんです。子どもにとっても安心して頼ることができる送迎や託児のシェアです。ちなみに、「送迎や託児」の場合は1時間500円程度(資格等により変動)を、シェア友と直接やり取りします。知り合いのシェア友同士なのに、無料ではなくてお金のやり取りがあることを不思議に思う人がいるかもしれませんが、わずかでも金銭のやり取りが発生するほうが気兼ねがないという意見も多いようです。さらには、子どもが事故に遭ったときには保険対応もあるとのこと。

また、研修を受けたコーディネーターである「ママサポ」が、定期的に地域で交流会などを企画し、シェア友になるきっかけづくりをしています。

AsMama の「子育てシェア」サービスのよう、アプリや ICT の活用で、地域の子育て世帯がつながる仕組みがひろがっています。

(平井裕三)



子育てのヒントになるかもしれない 6 つのこと

史上初の胴上げ投手 14 歳の女の子は、なにを夢見ているのか？

2018年8月、報知新聞社などが主催の第12回全日本中学野球選手権大会ジャイアンツカップを制したのは、大淀ボーイズでした。初優勝です。このとき、大会史上初の女性胴上げ投手が誕生しました。この試合で最終回に登板し、前日の準決勝で完投勝利を挙げた島野愛友利さん。1死満塁のピンチをしのいで完封リレーを達成させたのです。

島野さんは、14歳(当時)の女子にして、大淀ボーイズのエースです。連投となった決勝戦での登板も、「島野がここまで連れてきてくれたので」と監督さんは迷うことなく、今春からエースナンバー1を託した右腕を投入しています。

兄を見て野球の道を進んだ島野さんの夢は、「女子野球をひるめること」。これまで、中学硬式野球で女性の投手がマウンドに立ったから注目されたけれども、これが女子高校野球などの女子だけの世界になったときに、いかに関心を持ってもらえるか。島野さんが考えているのは、そこです。「誰も成し遂げていない数字、成績を残さないと関心は持ってくれない。そのためになにをしたらいいかを考えています」。野球が大好きで、負けず嫌いの島野さんの視線の先には、自らの成長と「女子野球をはじめ選手たちに目指してもらえよう選手になりたい」と、無限の夢を見つめているのです。(ルイス)



大淀ボーイズ
【HP】 <http://oyodo.web.fc2.com/index.html>

ヤクルトの食育

近畿中央ヤクルト販売株式会社
総務統括部 広報課
【tel】 0120-84-8960
【営業時間】 8:30 ~ 17:00

ヤクルトといえば、まずは乳酸菌飲料が頭に浮かびます。病気になってから治療するのではなく、そもそも病気になるようにする予防医学。その考えで生み出された飲料で、80年以上の歴史があります。そんなヤクルトでは、食育活動にも取り組んでいることをご存じですか？

「ヤクルトの食育は、乳酸菌飲料とおなじく予防医学をベースに考えています。健康情報を積極的に提供することで地域社会に貢献していきたい」と語るのは担当の村上さん。食育のため

に管理栄養士や健康管理士の資格を持ったヤクルトの社員が、科学的根拠に基づいた研修を受け、正確な情報を伝えられるようにしているそうです。科学的根拠に基づいたって聞くと難しく感じますが、そんなことはありません。幼児や児童向けの出前授業もあるんです。「腸の大切さや良いうちを出すための生活習慣について、映像や模型などを使い、分かりやすく説明をしていますよ」と村上さん。授業の様子を見ると、「ウンコでサンバ」というダンスをみんなで楽しそうに踊っていました。これなら

子ども食堂ならぬ大家族食堂で 子どもの居場所をつくる取り組みを

中崎町で築120年の長屋を再生し、コミュニティーカフェとしてはじまった「Salon de AManTO 天人 (サロン・ド・アマント)」が、子ども食堂「中崎町大家族食堂」を運営しているのを、みなさんご存じですか？ 毎週月曜 16:00~19:00、「AManTo 天然芸術研究所」で開催されています。2016年の夏にはじまったこの取り組みも、すでに130回以上開催されていて、訪れる子どもたちの増減はあるものの、すっかりと定着した取り組みとなっています。

「中崎町大家族食堂」は、単純に貧困家庭の子どもへの食事対策といったものではなく、大家族一家がみんなで集まって食べる(サザエさんだ!)昔ながらの体験を通して、コミュニケーションをとったり、子どもたちの居場所をつくったりする取り組みを展開しています。食事は、あくまでその取り組みのひとつです。

たとえば、みんなで折り紙をしたり、ボードゲームをしたり、相撲をとったり、ひな祭りや花火などの季節イベントもやります。それらのイベントは事前に準備しておこなわれるものから、ここに入りしている学生や大人たちがそれぞれ得意な分野を駆使しておこなうものまでさまざま。マンガを読んでいるときもあれば、恋バナに花を咲かせたり…、年上の子どもが年下の子どもに宿題を見たり、食事に関係しない、まさに、大家族で過ごす時間の過ごし方が、ここでは実践されているのです。

そして、食事のメニューですが、これが毎回毎回、じつにバラエティーに富んでいるのです。ある日のメニューは、チーズダッカルビにもやしと卵の中華スープ、たたききゅうり。べつこの日のメニューを見ると、冷麺に肉団子の甘酢あんかけチンゲン菜添え、ニラだれの冷奴、おまんじゅう(差し入れ)、カルピス(差し入れ)。そうなのです、差し入れが多いのも「中崎町大家族食堂」の特徴のひとつです。そんななか、昨年12月にJR東海道本線の中崎西高架下にオープンしたイオンフードスタイル中崎町店から、食品の差し入れがありました。これは、同社が取り組んでいる食品ロス削減の一環でおこなわれたことですが、全国展開をする大手企業と地域活動をする人たちがひとつの地域内でwin-winの関係で結ばれ、地域課題の解決のヒントを提示しているのかもしれない。(ルイス)

中崎町大家族食堂
【所在地】 大阪市北区中崎西1-1-18
【営業】 毎週月曜 16:00~19:00



気楽に参加できそうですね。取り組みは出前授業ではありません。公共施設や人が集まる場所に社員を派遣して、腸の大切さやプロバイオティクス、季節によって流行する疾患など、幅広いテーマで情報を伝える健康セミナーもおこなっています。「昨年6月に開催された北区保健福祉センター主催の食育まつりで、親子でも参加できる健康セミナー『健幸になるチョウイ話』をおこない、健康で快適に生活するヒントを提供しましたよ」とのこと。参加者には乳製品などの土産がある

そうなので、一度で二度美味しいですね。では、これらの取り組みに参加したい場合、どうしたらよいのでしょうか？「公共施設での開催は区の広報紙などでお確かめください。個人やグループ、地域の子育てサロン、放課後教室などでも、場所を提供くだされば開催いたします。ただ、場所によってはできないこともあるので、詳しくはご相談ください」とのこと。家庭だけで正しい食育を実践するのは難しいもの。こういった取り組みを上手に利用したいですね。(田口和成)

大阪府下の虐待死ゼロを目指す 「ゼロ会議」

痛ましい児童虐待事件が絶えない昨今、大阪府の児童虐待死者数は全国ワーストだと言われています。そうした事件が報じられるたびに巻き起こるのが、加害者である親への非難と厳罰化の議論。さらに、最近では虐待事件における児童相談所の不適切な対応にも批判が集まりました。しかし、それだけでは問題の根本的な解決にはならないと、府内外の35の子育て支援団体が集まり、3年間で大阪府下の虐待死をゼロにすることを目指すプロジェクト「ゼロ会議」が立ち上がりました。虐待に及んでしまう親の苦しみに思いを馳せ、みんなで親を救おうという活動です。活動のポイントは、身近な地域に、親が悩みを相談できる人を増やすこと。年4回開催のゼロ会議では、一般市民が誰でも参加でき、そのための対応方法を学びます。参加者は「きくでマーク」を自由に使用でき、地域で子育ての悩みを聞く意思があることを示します。「とにかく“付き添う”こと。無理に解決しようと上からものを言ったり、主観でジャッジしたりせず、話を聞いたうえで、専門機関につなぐだけでいいんです。そうやって専門家を下げるのが大切だと考えています」と、事務局スタッフは話します。現在、地域には子育てサロンがあり、インターネットには子育てに関する多様な情報があふれていますが、サロンに行かない人やインターネットの情報に触れない人は、子育て支援のネットワークからこぼれ落ちてしまいます。一方、支援する側も、専門家や意識が高い人にかざられてしまう現状があります。しかし、ただ声を掛け、話を聞いてあげる。そんな大阪のおばちゃん的なおせっかいで救われるかもしれない人がいるということ、ゼロ会議の取り組みから学ぶことができます。(松岡慧祐)



ゼロ会議事務局 (一般社団法人日本子育て制度機構内)
【所在地】 大阪市中央区南本町1-2-7 マヤ第一ビル 4F
【tel】 06-6282-7815 【HP】 <https://www.ikuhaku.com/zero/>

ライムスター『Hands』が問いかけるもの

2010年(平成22年)に大阪で起きた2児餓死事件における母親パッシングの風潮に、音楽でいち早く応答し「セーブ・マザーズ」のメッセージを発信していたのが、日本語ラップの先駆的グループ RHYMESTER の楽曲『Hands』(2011年)。「完璧などない 特にヒトの育て方には/まして重過ぎるのさ ママ一人の肩には」と、母親の育児プレッシャーに寄り添ったうえで、こう続けます。「なのにすぐ皆世代のせいにするのはなぜ/そんで少子化を憂うなんてポーズはナンセンス/かつてあった気がする理想郷のユニティ/懐かしがる前にまず目の前のコミュニティ」。もはや昔とはまったく異なる状況で苦しむ母親たちに、私たちはどう手を差し伸べられるのでしょうか？(松岡慧祐)



キタのええもん

キタの手みやげ

外はカリッ、なかはもっちりもちみゃぱんの山型食パン「みや食」



「ペーカリー みゃぱん」
【所在地】北区松ヶ枝町5-6 小亀ビル1F
【tel】06-6356-1120
【営業時間】11:00~19:00
【定休日】月・木・日
【HP】Facebook「ペーカリー みゃぱん」

ハンチング帽をかぶった、一見男の子のようなかわいらしいキャラクター(性別不明!)のイラストが目印の「ペーカリー みゃぱん」さん。大阪天満宮近くで人気だったパン屋さんが、松ヶ枝町に移転されたのが2017年(平成29年)11月で、小さいながらも大きな存在感を放っているパン屋さんです。

角食にパケット、ペーグルからピザトーストまで、クロックムッシュからミルクパンまで。店の奥の工房で焼き上がったパンから順番に、狭い店内に所狭しと並べられていきます。ほんま、3人も入ったらギュウギュウで、パンが自由に選べへんくらい激狭のお店なんです(笑)が、しかし、パンの種類は豊富です。常時50種類くらいあると思いますが、お店にお聞きすると、「数えてないので分かりません」と。さらに、どのパンも、パン生地はもちろん、それ以外の要素もきちんと丁寧につくられているというのが、伝わってくるんです。パンに詳しいわけではないけれども、どれも味付けが控えめで、あくまでパン生地を主張させるに留まっているそのバランスが素敵で、きちんと素材の味を楽しめるのがいいなあと、僕は感じています。

たとえば、「レモン・ピスタチオ」。レモンピールとピスタチオが練り込まれるように生地にトッピングされており、その苦みが絶妙にフランスパンの生地に合います。他、「チキンと牛蒡のフォカッチャ」をはじめ、目移りするほど必至だし、それぞれのパンにすでにファンがいるのは承知しているのですが、そんななか、僕の超お気に入り、山型食パン

の「みや食」です。なかでも5枚切りが!米と麴の力でゆっくり発酵させたパン生地は、甘酒を使っていて、ほんのりとした甘さと国産小麦のもっちりとした食感が特徴です。トーストすると、外はカリッと、なかはもちちとしています。耳は、カリッとというよりもザックザクのバリバリです。ジャムやピーナツバターなんかの甘いものをつけて食べるよりも、ハムエッグなどの塩系のほうが相性がいいと、個人的には思っています。もちろん、バターだけでも、なにも塗らなくてもGOOD☆「トマトが合うんです。トマトスリーブと一緒に召し上がっていただくと、とても美味しいです」とは、お店のオススメです。夕方4時くらいに焼き上がり、5時くらいに行くと、好みの厚さに切ってくれます。1本620円。ハーフサイズの1斤で310円。僕は5枚切りがジャストです。

最近の高級生食パンとはまた違うベクトルのパン屋さんですが、どんなまちにも1軒くらいは花マル印の美味しい手づくりパン屋さんがあるものです。「ペーカリー みゃぱん」さんもまた、そんなお店のひとつ。「子どもさんを連れて気軽に来てもらえるお店にしたい。だから、子どもでも覚えてもらいたいやすい店名にしたんです」。営業日が火・水・金・土とハードル高めな週4日なのは、オーナーさんがおひとりずつくっているから。それでも、水曜日はサンドイッチの日、他、季節限定もあり。お店に行くこと、楽しいことがたくさん待っています。FB等で最新情報をチェックしてから、ぜひ、お気に入りをお買い求めを。(ルイス)



中央公会堂寄付者 岩本栄之助氏像



2018年(平成30年)11月、大阪市中央公会堂は開館100周年を迎えました。その公会堂の地下1階展示室に、「中央公会堂寄付者 岩本栄之助氏像」があります。台座には「昭和三十三年十一月建之 大阪証券取引所 大阪証券業協会」「そごう謹製」というプレートが貼られています。

台座が一風変わっているのは、公会堂創建当時に基礎として埋められた松杭からつくられた台座だからだそうです。1999年(平成11年)から2002年(平成14年)にかけておこなわれた保存・再生工事の際に免震装置の設置に伴って掘り出された松杭から、銅像に合わせて台座がつけられたのだとか。となると、もともと、銅像はどのように設置されていたのでしょうか? さらに、公会堂をつくるに当たって岩本栄之助氏とは、どのような人物だったのでしょうか?

岩本栄之助氏は1877年(明治10年)生まれ。大阪株式取引所の仲買人でした。相続を機に、父親の遺産と自身の資産を元手に公会堂をつくり、大阪市に寄付した人物だそうです。「岩本さんは株式取引で財を成した人ですが、ご本人は家業に向いていないと自覚していたそうです。それよりも、利益を公共のためにどう使ったらいいかをずっと考えていた人です。ご両親も、そういうお考えの方だったそうです。いろんな人に相談し、いくつもの案があったようですが、誰もが使えるものをと

いう考えから、公会堂をつくることになったようです。まさに貢献したいと強く思っていた岩本さんは、誇りある大阪人の象徴的な存在ですね。公会堂をつくったことよりも、その人柄と志が語られます。

「この台座のプレートにある、昭和33年という年は大阪市中央公会堂が開館して40周年に当たる年です。当時の記録によると、40周年を記念して、多くの企業から寄贈があったようです。この銅像もそのひとつで、計画してつくられたものようですね。当時は、1階の大集会室ロビーの正面に階段があり、その右手に銅像が置かれていました。2002年(平成14年)までの保存・再生工事で階段を取り除いたときに、銅像が移設されることになり、そのときに松杭で台座がつくられ、今はショップになった地下1階の岩本記念室に設置されました。その後、公会堂の歴史をもっと知ってもらえるようにと、岩本記念室の向かいの貸し会議室を展示室にすることになり、銅像もそのときに再び移されました。

往々にして、時が経つにつれて忘れ去られ、隅々で埃をかぶる銅像が多いなか、建物のレイアウトが変更になろうとも場所を変えて大切に飾られ続けるところに、岩本氏の人徳を感じずにはいられません。「岩本さんは、公会堂の生みの親です。公会堂はいろんな人が使ってこそ価値があります。公会堂に来ていただいで、岩本さんの思いに触れて、大阪の文化に誇りを持って、彼の思いを受け継いでいってほしいですね。そう語る黒田さんならではの。(棚橋真理)

インディーズ系 北区 マップ



北区子育てマップ

近年、地域における子育て関連施設の増加に伴い、各自治体で、そうした施設の情報をもとめた「子育てマップ」が作成されるようになっていきます。北区でも、かねてから北区保健福祉センター子育て支援室によって子育てマップがつくられ、1年ごとにバージョンアップされてきましたが、じつはここ数年で北区の保育施設はなんと2.5倍の約40ヶ所に急増しています。少子化のなかでも、北区に関してはタワーマンションの建設ラッシュなどの影響で、子どもの数はむしろ増加しているのです。そこで、2018年(平成30年)9月に、従来のマップを刷新した新しい子育てマップが発行されました。

従来のマップは折り畳み型で、1枚刷りの全体図のみが掲載されていましたが、区役所の担当によれば、それをわざわざひるがへて見るのが煩わしかったこと、一覧性があるがゆえに焦点が定まりにくく、最初にどこを見ればよいか分かりづらかったことから、冊子型に変更することになったのだとか。それに伴い、目次の次のページには「地図のインデックス」として「地区割り図」が掲載されています。それは、大淀東、豊仁、本庄、済美、堂島、菅南など、19地域に分割されて色分けされた。まずはそれを見て、自分の属する地域の詳細図のページに飛ぶことができるようになっていきます。詳細図には保育施設・幼稚園・子育て支援施設・地域子育てサロンの網羅的にマッピングされていますが、さらに新しいマップでは子ども遊び場である公園も



強調されるようになりました。冊子の後半には休日・夜間急病診療所の情報、妊娠以降必ずおこなう手続きや健康診査のプロセスを一覧化した子育て早見表が掲載されるなど、必要に応じて繰り返し使える充実の内容。従来のような工夫として、常に母子手帳と一緒に携帯できるようコンパクトに折り畳める仕様にしてみました。さらにサイズはそのままの冊子型にすることで、母子手帳と同じように、いつでもバラバラと手軽に目を通せるようになったことは、利用者に寄り添った大きな改良です。

とりわけ北区では他地域から転入してくる親も多いため、子育ての基本情報として、こうしたマップのニーズは高いと言えるでしょう。そもそも新住民は、前述の地域割りの存在を知らず、自分がどの地域に属するかも把握できていないため、そんな人々が地域とつながるきっかけになるということも、マップの副次的な機能として期待されているとのこと。親の孤立が児童虐待などの問題の引き金になっていると言われるなか、「今はインターネットで子育ての情報を得る親も多いが、それだけでなくマップを見て、子育てサロンなどで人に出会い、人の声を聞くきっかけにしてほしい」と、区の担当者は話します。実際にマップを見ると、子育て支援施設や子育てサロンのように、相談や交流のための選択肢が身近にたくさんあることがひと目で分かります。 구글マップにも載っていない「親と地域をつなぐ情報」が、そこには詰め込まれています。(松岡慧祐)

駅探 えきたん



インスタ映えと 歴史クイズ

2018年(平成30年)4月1日に大阪府交通局が運営していた地下鉄とバスが民営化し、別々の会社が誕生しました。そのうち鉄道事業を引き継いだのが「大阪市高速電気軌道株式会社」通称「Osaka Metro」(大阪メトロ)です。

公営の地下鉄が民営化するのは全国でも初めてのことなのでありますが、大阪市の100%出資ということで、これを私鉄と呼んでいいのかどうか分かりません。地下鉄が民営化されたことで、鉄道以外の事業展開ができるようになった大阪メトロは、「鉄道を核にした生活まちづくり企業へ変革」することを打ち出しており、鉄道以外の新たな柱となる事業を創出していくことになりました。民営化と同時にホワイトイデアめだやなんばウォークなどを運営する大阪地下街株式会社が開連会社になったこともあり、鉄道事業との関連性が強い駅ナカや地下街の開発は今後加速していくものと思われまます。昨年、奇抜すぎるデザインで話題になった駅の改修デザインもこの流れの一部なんです。

そんなふうにして初年度から張り切っている大阪メトロですが、じつはあちこちの駅で小さなイベントや仕掛けをやっていたりするので。たとえば、中崎町駅では、風船のかわい絵が描かれた「ウォールアート」が出現しています。壁一面のサイズでアートが描かれていて、そのアートの一部となって自分も入ることで、インスタ映えしつつも作品が



できてしまう代物です。あなただけの一枚をつくることのできるこのウォールアートは、中崎町駅の他にもアートのゆかりのある5つの駅で開催されています。もうひとつのイベントは、歴史クイズ「ココどこやねん?」昔の『おおさか』はこんなやつたんや!」です。現在の駅がある場所の昔の地図をプリントしてクイズにしたもので、ポスターにして駅に貼り出されています。このクイズイベントは大阪メトロのホームページにも掲載されており、ポスターもパソコンのワープロソフトでつくった手づくりのもの。中崎町駅だけでなく東梅田駅にもこのポスターが貼り出されていて、どうやら谷町線でおこなわれている企画で、谷町線の天神橋筋六丁目駅を除く天満橋から大日駅までの駅員さんが、自分たちでつくっているそうです。駅のある場所が昔はどんなふうだったのかを、古い地図を使って知ってもらおうとはじめられました。「谷町線も開業から50年が経過し、開業当時と今とは、駅周辺がかなり変わりました」と教えてくださいました。クイズの答えは、翌月に、新しいクイズの下に置かれるのですが、なくなるスピードが早く、人気なのだそうです。

インスタ映えのウォールアートと歴史クイズ。おしゃれでありながら昔の面影が色濃く残る中崎町のイメージにピッタリなイベントを開催している中崎町駅をはじめ、今後、大阪メトロに注目していきたいと思えます。(平井裕三)

豊仁地域のURマンションに町会を立ち上げた女性がいるよ、と聞いたとき、すぐには理解ができませんでした。分譲マンションの自治会でも町会に入っていないところがあるのに、分譲より人の入れ替わりが頻繁にある賃貸マンションで町会って、どういことなんだろう？ そもそも町会って新しく立ち上げられるものなの？ など、聞きたいことが次々と浮かんできました。猛スピードで自転車を走らせて待ち合わせ場所に現れたのは、小柄で上品な女性。「お待たせしちゃって、ごめんなさいね」と言いながらはにかむ、笑顔が柔らかな渡辺須美子さんです。

越前から大阪へ、結婚生活のはじまり

須美子さんは、1930年(昭和5年)9月18日、福井県越前市に、11人兄弟の6番目、長女として生まれました。「兄ばかりで男の子みたいに育ちました。東京に行った妹もいますけれど、ほかの兄弟はだいたい福井にいます。今も野菜を送ってくれますよ」。仲のいい兄妹に囲まれながら、和裁と洋裁ばかりして娘時代を過ごしました。市議会議員をしていた父が同僚の息子さんとの縁談を決めたのは、須美子さんが24歳のとき。ご主人は須美子さんと同郷で、小学校を卒業してすぐに大阪に出て、洋服の仕立ての修行をしていた人でした。「先方は洋裁ができる人を探していたようです。それで私が選ばれたんでしょうね。結婚式は、長柄八幡宮で挙げました。夫には、そのとき初めて会ったんです」。その日から、まったく知らない土地で、初対面のご主人とふ



子どもがいるからこそ、町会に入らないといけないと思いました。

たりだけの生活がはじまりました。「最初の半年くらいは、毎日泣いていました。ごはんもろくに食べられませんでしたよ。でも当時は、親の面目をつぶすようなことはできないと思っていて、越前に帰るだながひとりもいないまちで寂しかったと話されます。「市場に買い物に行こうにも、怖くて怖くて。言葉が分からないし、話し掛けられても怒られているみたいで怖くてね」と。

結婚の翌年、ご主人は独立して、スーツの仕立ての店を構えました。「夫がターツとミシンをかけて、襟や裾をまつたりする細かいところはみんな私がやりました」。洋裁の腕を見込まれて結婚した須美子さんの面目躍如です。子どもも生まれ、夫婦二人三脚でがんばってきました。

1960年(昭和35年)、たばこの専売許可が下りたのをきっかけに、仕立ての店を閉め、おなじ場所であれば店をはじめました。

シングルマザーになる

たばこ店をしながら3人の子育てもしていた須美子さん。「子育ても、なみだなみだでした。野菜は越前の実家から送ってもらっていましたが、ご近所さんからお金を借りていました。すみません、すみませんって言ってね。本当に、ご近所の方にはよくしてもらいました。結婚当初、怖い怖いと身をすくめていた大阪ですが、子育てをはじめてからは周囲の人の優しさとご近所付き合いのありがたさを強く感じるようになったと話します。「それに、私自身も強くなりました」。

「長女が中学生くらいになると、夫に女の人ができたんです。お店にも入るようになってね。夫が子どもに、新しいお母さんだよって言ったりするんです。でも、私ももう越前に帰るわけにもいきませんしね。そんな辛い生活が2年ほど続いた末、去っていったのは、その女の人の方でした。「それならね、夫も一緒に出ていっちゃったんですよ」。

子さん。リバーサイドながら暮らすようになってからも、町会活動することはあたりまえのことのように思っていました。「地域は町会の集まりです。町会に入らないと、地域のお祭りにも参加できません。八幡さん(長柄八幡宮)の境内にも入れないんですよ。子どもが小学生になれば、PTA活動もあります。それに、マンション住まいだから町会がないとか、町会に入れないとか、おかしいでしょ」。そういう須美子さんの考えは、当初大きな反発を受けました。

マンションでも、町会が必要!

「夫は、自宅に鍵を掛けて出ていっちゃったんです。しばらくは、店で寝泊まりをしていました。あるとき、息子が自宅に入ることがあります。タイムング悪く夫が戻ってきてね、息子は夫に暴力を振るわれて、警察沙汰になったんです。そんなこともあって、いよいよ自宅に帰れなくなってしまったんです。店の隣に自宅があるのに、帰れない。須美子さんは、子どもを連れて近所に建ったばかりのURマンション、リバーサイドながら入居しました。「それで、店には通いになったんです。だから、子どもたちにとっては、育った家はリバーサイドながらなんです」。

「地域に古くから住んでいる人のなかには、マンションなんてよそ者の集まり、よそ者は町会に入れたくないだとか、町会に入ってもよそ者だから役員にはさせないだとか、そんなことを言う人がいました。よそ者嫁いできたはずの女の人でもそんなことを言う人がいて、驚きましたね」。須美子さんは、マンション自治会の役員になった頃、もともと活動していた町会の人から「マンションのことばかりして。こっちの町会のことでもしてもらわない」と小言を言われたこともありました。

そんな、大変な出来事を経て、リバーサイドながらでの新しい生活がはじまります。リバーサイドながら全7棟、約700世帯が暮らす大きなマンション群です。リバーサイドながらのマンション自治会は、立ち上がったのは消滅するというのを何度か繰り返していたそうです。須美子さんが入居した頃にも、何度目の自治会がスタートしていましたが、町会には入っていませんでした。

「マンションの自治会があるから、町会に入る必要はないって言うんですね。でも、子どものためにも町会に入るのは必要だと説明しました」。須美子さんの根強い説得により、ついにはリバーサイドながらの自治会は、既存の町会に加入するのではなく、新しく自分たちで町会を立ち上げることにしました。

「当時のリバーサイドながらは、若い世代が多くて、子どもの数が地域のなかでも圧倒的に多かったんですよ。子どもがいるからこそ、町会に入らないといけないと思いましたが、3人の子どものPTA活動を皮切りに、町会活動の主力にまでなっていた須美子さんです」。

「マンションの自治会があるから、町会に入る必要はないって言うんですね。でも、子どものためにも町会に入るのは必要だと説明しました」。須美子さんの根強い説得により、ついにはリバーサイドながらの自治会は、既存の町会に加入するのではなく、新しく自分たちで町会を立ち上げることにしました。

みんな仲良く

「みんなが仲良くできたらいいと思っています。好きだの嫌いだの気に入らないだのっていうのはなくてね。そりゃあいろんな人がいますよ。でも、世のなかでそういう人もいますからね。嫌いだって言ってもねえ」と、ふふふと笑って、どんな考えの人も受け入れる度量があります。

「夫もね、ずっと音信不通だったんですけれど、警察から亡くなったと連絡がありました。私と夫は同じ年なんですけれど、74歳のときでした。最後まで、なにかあったときの連絡先はうちにしていたんですね。長男が喪主になってお葬式だけ出しました。今では、かわいそうなんだったと思います」と、辛かった思いを昇華し、そんなふうに話す須美子さん。とても愛情深い人なのです。

女性が活躍しているまち、豊仁

須美子さんは、昨年まで豊仁地域の女性会会長と、豊仁連合振興町会の女性部長を兼任していました。「豊仁の女性には団結力がありません。老いも若きも関係ありません。女性が団結しているから、地域の行事もうまくいっているんです」と胸を張って話されます。「いろんな地域の会館にお邪魔することがありますけれど、豊仁の会館は古いのにきれいだと思えます。トイレもピカピカですよ。これはね、地域の女性の力なんですよ」。各町会の女性が持ちまわりで会館の掃除をしているそうで、「連合町会長さんにいつも言うんです。豊仁の女性の力はここに光っている! ってね」。

「今はリバーサイドながらを出て、元の家でひとり暮らしをしています。ちょっとお店を閉めてみると、近所の人々が心配して家を見に来てくれるんですよ。なんでもなく、でも、気に掛けてもらって、ありがたいですね」。これまでいろんな人を大切にしていた須美子さんだからこそ、今、周囲から大切にされています。会合でも、須美子さんが話し出すとしんと静かになって、みんなが聞き入ります。

今年の北区女性会の旅行では、豊仁地域からの参加が一番多かったそうです。「豊仁の女性会の会長が交代して最初の行事に、た

「ここに行っても最年長なのよ。だけど、今とっても幸せです」。誇らしげに話す須美子さんの姿は、屈託なく朗らかです。